リトルバスターズ!!〈Another world story〉

朱鷺戸沙耶は俺の嫁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リトルバスターズ！！〈Ａｎｏｔｈｅｒ　ｗｏｒｌｄ　ｓｔｏｒｙ〉

【Ｎコード】

Ｎ８９４５Ｚ

【作者名】

朱鷺戸沙耶は俺の嫁

【あらすじ】

地下で沙耶が望んだもの…それは…

【プロローグ】闘いの果てに望むもの―（前書き）

連載ばっか増やしてすみません。連載疎かにしてすみません。謝ることに定評のある主です。
お久しぶり、皆さん。
新連載、リトルバスターズ！！〈Ａｎｏｔｈｅｒ　ｗｏｒｌｄ　ｓｔｏｒｙ〉を始めていきます！！
よろしくお願いします。

【プロローグ】闘いの果てに望むもの―

「地下にある秘宝はどんなものだったらいい？」

彼女に出した1つの問。彼女の望みはたった1つだけ叶えるつもりだ。

「そうね…だったら××××がいいわね」

それが彼女の答えだった―

「朱鷺戸さん…これってどういうこと？」

彼、直枝理樹は金髪の少女、朱鷺戸沙耶に聞く。

「いい、この学園には闇の執行部がいる…そいつらを倒して秘宝を手に入れるの…」

「はぁ…」

しかし、理樹には彼女が何を言っているか理解出来なかった。

ただ昔…いつだったか忘れたが、その時から彼女が好きで…だからわからなくても協力しているである。

いきなり渡された機関銃。地下に入って地面に放った弾が床に穴を

開け、更に深く、暗い世界を作り出す。
地下８階には
『闇の執行部部長』の【時風瞬】がいる。
と沙耶に教えてもらった理樹は、更に地面に弾を放ち続ける。

―地下８階―

「来たか…」

赤色がかった髪に、ボイスチェンジャーで変えた声、よくわからないマスクを着けた男。
この人が”時風瞬”なんだろう…。
理樹はすぐにボスを理解した。
そして、それと同時に理樹の頭は混乱していた。
強そうなボスを前にしたのもそうだが、彼は今、女装をしているのである。
そう、大好きな沙耶の格好をしている。
女装をしているのにはわけがあった。
理樹を囮に時風瞬を理樹を盾にして沙耶が後ろから射撃して倒す、という作戦”だった”。

「まさか、そんなものでこの俺が倒せると思っているのか！？」

”だった”のである。
しかし、時風瞬にはすぐにバレてしまった。
だがそれでも、沙耶は作戦を決行した。
理樹の後ろから、銃を構えて。

「貴方は私を倒せない。何故なら貴方の銃は理樹君に向いているもの。さぁ理樹君、撃ちなさい！！私達で時風瞬を倒すの！！」

そして乾いた銃声が3つ。
倒れたのは”時風瞬”ただ1人だった。
「近くにエレベーターがある。それを使え」
「わかったわ」
稼働しているエレベーターに乗り込み最下層へ向かう。
……。
ついたのは研究所らしき場所だった。
「理樹君も一緒に来て」
研究施設の厚いガラスの向こう側…。
歪んだ何か、がある。
よくわからない形。
よくわからない色。
表現出来ない何か…それを触る理樹と沙耶。
そして理樹と沙耶は――

――この世から去った。

【プロローグ】闘いの果てに望むもの―（後書き）

3話連投です。

【第1話】曖昧な記憶、暗い夢（前書き）

はいはーいゞ（、▽、＊）ゝどうも主です。
うpしました。
まだ短めですがそのうち長いの書きますので待ってて下さい。

【第1話】曖昧な記憶、暗い夢

目を覚ましたは理樹は、涙を流していた…。
まるで大切な物を無くしてしまったかのように。

「起きたか理樹？」

理樹の前に居るのは―
棗恭介。
どんな困難も覆す、理樹にとってはヒーローのような存在だ。

「嫌な夢を見たんだ…」

「そうか…」

「……」

「腹減ったろ？学食に行こうぜ」

「うん…」

部屋を出た理樹と恭介。
廊下には高い身長と暑苦しい筋肉のボディの井ノ原真人が居た。

「どうした理樹？元気がねぇな…。いいか理樹、元気を出したいときはひたすら筋トレをするんだ。筋肉は元気をくれるぞ」

ついでに馬鹿だ。

「それは無理だと思うぞ」
恭介がつっこむ。
珍しいこともあったもんだ、と思う理樹。
「なんだその目は？あーあまた変な馬鹿がなんか騒いでるから取り敢えず褒めておこう。いつ黙るのかわからないけど五月蝿いから早く黙ってくれないかな。とでも言いたげだな！！」
「ありがとう真人。面白い突っかかり方で、元気が出たよ」
真人は、馬鹿は馬鹿でも、人が落ち込んでいる時は人を元気付けてくれる馬鹿なのだ。
それは素でやってるのかわからないが、とても励まされる。
「へへっ。いいってことよ」
そう言って真人も一緒に学食に行くことになった。
学食に着くと、いつも決まった場所が空いている。
そこが理樹や恭介達の席だった。
決まっているわけではないが、皆にそう根付いているのだ。
席にはすでに恭介の妹の棗鈴、真人とライバルの宮沢謙吾が座っている。
「おはよう2人とも」
「おはよう」

「おっす」

三者三様に挨拶をする理樹、恭介、真人。

「なんだ理樹、良くないことでもあったか？」

「お前、顔やつれてるぞ」

謙吾や鈴まで理樹の感情の機微に気付く。

「大丈夫だよ。真人にも言われたけど…そんなに僕ってわかり易いかな？」

「あたりまえさ！俺達は幼なじみ。悪を倒すための正義の味方リトルバスターズなんだから」

恭介が皆を代表して応える―

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8945z/

リトルバスターズ!!〈Another world story〉

2011年12月28日02時46分発行